

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作りあげており、玄関にも掲示している。職員は社訓や理念をカードにし、携帯している。事業所独自の理念を理解している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は五訓に繋がっており、職員は入社時より、勉強会や研修等で理解し、理念に基づく運営をしている。朝礼、夕礼では理念を毎日唱和している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	新聞などを行政や地域の代表、家族等に配布し話をしている。本人、家族には入居時にきちんと説明し、理解して頂いている。	パンフレットに代表の写真、理念を掲載している。今後も新聞や地域活動に取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	増築や外壁の色を変えた事や、テーブルや椅子を増やしたことにより、気軽にタバコを吸いにこられたり、立ち寄る人が多くなった。近所の人と気軽に立ち話をしたり、朝夕の挨拶をすることにより、以前より理解してもらえ、温かく受け入れてくれている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や祭り、また、行政の行事に参加している。外出時や、車の乗り降り等、地域の人が手伝ってくれている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>二ヶ月に一度地域会議を開催している。民生委員や福祉課の職員と家族が参加し情報交換をしている。また、プルタブやペットボトルのふたの回収をわかりやすいところに設置し利用者も参加している。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員一人一人が評価の意義を理解し、具体的に日常業務に取り組むことができるように前回のものをファイルに整理し確認できるようにしている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の開催において利用者やその家族に対し、積極的に参加を求めている。よりよいサービスの実現にむけて報告や情報交換をおこなっている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>窓口へ相談にいたり、電話の問い合わせなどを行っている。行政の取り組みなどの情報も聞いたりむできている。町内の同事業所でのネットワーク作りにむけて役場の職員ととりくんでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者、職員で研修に参加しその後内部研修をしている。知識向上を目指している。家族や本人にはわかりやすいパンフレットを準備し必要な人には活用できるようにしている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>行動や言動にも注意している職員間でも見過ごされることがないようにしている。法令の資料や関連法についての研修や勉強会もしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の他に入居前に連絡をとったり、数回は家族と本人に会うようにしている。疑問点や不安なことなどを説明を十分に行なえるように理解、納得していただけるような時間をつくるように取り組んでいる</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時や提示したりして、苦情窓口について説明している。苦情や不満などについてはきちんと家族と本人に機会をもうけ、説明し解決に取り組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、きちんと金銭管理の内容については個々にあわせ、本人、家族に説明している。訪問時には必ず、報告するようにとりくんでいる。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの要望や意見などは職員全体で把握するよにノートや日誌に記入している。意見箱の設置もしている。また、外部の相談窓口の紹介もしており、家族に説明している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼や終礼、会議などで提案している。管理者や代表はできるかぎり応じている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員には要望を聞くようにしている。交代や行事や外出などに職員が確保できるように話し合いや調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>プライベートなことでも相談に応じ、出来る限りの支援をしている。又、非常勤を正社員に雇用できる配慮や申し出により、非常勤に変更する等、長期に渡る休業にも対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	性別、年齢、資格等に偏ることなく、あらゆるニーズに対応できるように幅広い視野で人材を採用している。また、各職員の特性を活かし様々な場面で発揮できるように自主的な取り組みを尊重し多種多様な意見が取り入れられるように努めている。	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	講習会等に参加している。人権に関する理解と実際の業務に活かす取り組みをおこなっている。	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設内外をとわず、より多くの研修参加の機会をもうけている。指導担当をつくり職員の向上に努めている。、能力に応じた指導や研修もしている。	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	役場の福祉課と連絡をとりあい、同業者とのネットワークづくりをはじめている。	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休憩室や冷蔵庫の完備、相談や体調管理にも注意している。忘年会や食事会なども実施している。	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	仕事の役割や能力に応じた対応をしている。職員がそれぞれ向上心をもって働けるように勤務状態の確認や信頼関係などを築くように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接は必ず行い、初回はきちんと相手の思いや希望を聞き利用に対する不安や困っていることを利用に至るまでに解消したり理解できるように対応している。本人が希望していない、説明をうけていなかった場合でも、本人だけとの話す場をもうけ、相手の気持ちをうけとめられるように努めている。	本人だけでなく、許可があればサービス提供者やケアワーカー、医師からも話を聞き、よりもっと相手のことを受け止めるように努めている。数回は家族、本人と会うようにしている。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前には数回連絡や訪問をおこなっている。家族だけとの面会も1度は実施するようにし、困っていることや不安なことなどを聞く場をもうけている。	職員の紹介なども早めに行い、家族が安心できるように努めている。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安な事などを早期に解決できるように、どのように生活したいか、するかをきちんときちんと説明している。又、本人の状態を見極め、よりよい生活や必要としていることを提案したりして、よく話し合いをしている。	訪問歯科や訪問マッサージの説明、地域の活動(習字や習い事など)の説明もしている。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と見学、訪問をお願いしている。家族希望の入所が多い為、家族と相談しながら、本人と話ができる環境作りや日帰り体験、訪問をしていただけるように取り組んでいる。又本人の状態に合わせて入居できるように常に準備している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援するだけでなく、一緒に生活しているという立場で話をしたり、聞いたりして喜怒哀楽を共にできるように支え合う関係を大切にしている。会話する、声をかけること等を日ごろより行い、双方が学び合う環境にしている。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持等を家族に知らせたり、状態の報告を行い、本人のことを共に考たり、家族の支援をお願いしたりと、利用時より、一緒に支えていく関係づくりに努めている。食事会や外出などに家族を誘ったり、双方が協力してよりよい生活ができるように家族にも理解していただく取り組みも積極的にしている。	
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が寂しい思いをしないように、家族へ日々の生活のことをこまめに連絡をとったり、本人の思いや訴えなどを伝えたりしている。又本人と一緒に家族や孫へ電話をかけたり、手紙をかいたりできる支援を積極的にしている。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	信仰している教会や行きつけの美容室などに行けるようにしている。友人や親戚の訪問時には客間を提供したり、本人と一緒におもてなしの心を忘れないようお茶やお菓子を準備したりしている。手紙のやりとり、電話の支援もしている。	状態が変化しても可能な限り、社会参加できるように、周りの方に相談を行ったりして、理解や協力を得れるように働きかけている。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の助け合いや関わり合いが近所づき合いのような関係になっている。利用者同士の関係を把握し、職員が見守りや声を行い双方の支援をおこなっている。一人で過ごす人も孤立しないように、職員が関わったり、利用者の性格や状態を把握し、他者といつでも関わりあえる環境づくりに努めている。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近所に来たからと立ち寄る家族もいる。手紙が届いたり、電話をしたり、終了しても様子を伺ったり、訪問に誘ったりしている。	家族との関係は継続していることが多く、その後家族の紹介で利用したいという希望の連絡があったりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に確認したり、日々のケアで把握に努めている。。又、職員同士で情報を共有するようにしている。一緒に行ったり、他者との協力でも実現できるように支援をしている。	家族の意向もある為、家族とのコミュニケーションも訪問時には必ずとるようにしている。又、家族への情報提供や状態の報告を行い、理解や希望の把握に努めている。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアワーカー、主治医、家族からの情報提供を確実にこなっている。細かな事も書きとめ、職員で共有するようにしている。職員がそれぞれ関わりをもつようにし、各職員の情報や気づきなども共有している。記録にも記入している。	家族の訪問時は居室の訪問をケアマネや職員がおこない、家族と利用者と一緒に談笑するようにしている。日々の気づきを報告し、家族からの情報も得ることができるよう努めている。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者の生活のパターンや1日の過ごし方を把握できるように記録がある。状態変化においては、記録、ノートに記入し、職員が把握し対応できるようにしている。本人の今の状態を確認できるように3か月に1回は記録をみなおしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師や家族、職員と話し合い、本人の意思もきちんと伝えられるようにしている。意見やしたいという気持ちをくみとって作成している。家族には報告し、家族の意見も反映させている。又本人にも説明している。	計画、取り組みや結果などの報告はしているがきちんとした場をもうけていない。電話連絡や訪問時に話すことが多い。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し以前に対応できないことや変化があった場合は本人に確認したり家族と話をしている。リハビリ等については家族の意見や報告を行い、理学療法士や医師と話しあいをしている。その時の必要な支援ができるように作成している。	以前にくらべ、状態の変化や新しい取り組み、ケアの必要性について職員がそれぞれ気づいたり、意見を言うようになってきた。又、それについて考え、職員で同じ気持ちで支援していく方向性もできてきた。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録の内容が充実してきている。各職員が日中を通して、個人の事が様々な面で書けるようになってきた。情報の共有についても積極的に取り組むようになっており、見直しにもいかしている。</p>		<p>記録の書き方が不十分なところもあり、内容が簡潔すぎたり、まとまりが不十分な時もある。現在記録の書き方などについてもみなおしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人の希望に沿うようその時の状態に合った対応をしている。買い物、手工芸、園芸、外食、散歩など園内にとどまらず、多機能を活かした支援をしている。</p>		<p>入居者にたいして、集団的な取り組みが多かったため、現在、さらに個別の支援として家庭的な部分を広げる為、さらにひとりひとりの会話を大切にし居室の訪問を増やしたり、日常生活の支援、洗濯や掃除、手紙を書く等をしているところである。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>消防署の協力により避難訓練をしている。民生委員の方とはふれあいができるようになってきており、行事の誘いも積極的にしている。</p>		<p>地域包括会議に近くの交番の参加を検討している。ボランティアとの協力が減ってきているので地域のボランティアに力をいれたい。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>リハビリについては理学療法士と話し合いをもったり、連絡を取り合えるようになってきた。福祉用具、訪問歯科、訪問マッサージ等、本人の必要性和状態に応じてサービスを利用できるように支援をしている。</p>		<p>他のケアマネジャーとサービスについて話し合う機会をもちたい。又、町内のグループホームとも連携をとって情報交換や学びの場をもちたいとおもっている。行政にも相談し取り組みを検討中である。</p>
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括との協働はまだしたことないが地域連携室との連絡等をするようになった。</p>		
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医がいる場合は希望に沿っている。先生とよい関係が築けてきている。電話での問い合わせ、家族の希望など適切な対応と医療が受けられるようになっている。各職員が情報をよく理解したうえで、かかりつけ医との連携につとめている。</p>		<p>訪問医のことをかかりつけ医にも報告しており、検査の結果についての相談、再検査の依頼などの連携もできている。緊急時についても家族と話し希望やここでの対応、病院への手続きなども説明し適切な医療にむけてとりくんでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>認知症の研修や認知に関する資料を配布したり、今現在の状態などをきちんと理解できるようにして、医師との情報交換にも職員がつとめている。</p>
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>薬のことや排便、血圧、病院の有無等も含め、看護師に相談することも多く早期発見や防止に繋がることもある。それぞれの役割などが明確になり、入居者にたいする支援がスムーズになってきた。</p>
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>病院や家族へ情報提供しているが、入居年数が経過している入居者においては特に重度化や今後についてきちんと家族に説明し家族の希望や思いを確認する場をもうけたい。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>家族の不安は年々増しているよう感じ、その為、細かな状態の報告、どのように対応しているか、どうするか等、その都度きちんと話し決めるようにしている。</p>
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>グループホームへの住み替えの際は病院とその後連絡がとれるようにしている。特にケースワーカーとの情報交換、ケア関係者との入居後の会議も行えるようになってきた。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室へのノック、トイレの介助の際もノックするようにしている。個人情報には確実に管理を行い、職員間の申し送りや話しは場所などを考慮するようにしている。必要な個人情報の提供については、家族から説明を行い、同意をえている。メモ紙の記入は紛失を考え、しないように徹底している。	オムツの管理やトイレ誘導などのプライバシーには注意するようにし職員間でも声をかけあうようにしている。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活全般において、じぶんで意志決定ができるように、説明や声かけをおこなっている。家族にも確認するようにし、きちんと納得したり理解できる働きかけをしている。職員が先走った声かけをしないようにも注意している。言葉だけでなく、表せるような支援やその事にすばやく対応できるように、日頃より観察している。	病院については家族と本人を交え、きめるようにしている。状態や状況の説明も行い、必要なことなども職員より説明し判断できるようにしている。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリを実施したり、談話室での過ごし方についても何をしたいかかかっている。横になりたい、テレビを観る、音楽を聴く等居室や談話室でおのおの過ごせる環境づくをしている。個々のリズムを大切に、またある程度の生活リズムは把握するように努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容、理容にいけるように支援している。髪染めも希望者には園で実施している。洋服を選んだりできるように、筆筒に名前を記入したり。化粧やアクセサリー、時計などの持ち物も把握し自分で楽しむことができるようにしている。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	座ってもできるもやしやねぎりや皮むき等の手伝いもお願いしている。季節ものつくしや栗などもみんなで楽しみながら下準備をしている。テーブル拭きや配膳などを進んでいただき、職員と利用者が一緒に取り組んでいる。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	能力や状態に応じて、提供できるようにしている。自己管理や預かりにいつでも楽しめるようにしている。制限もあるが、量の把握などをおこない、嗜好は楽しんでいただくように支援している。	晩酌する人はいないが、行事にはアルコールなどを楽しめるようにしている。家族の差し入れは職員に声をかけていただくようにし、食べたものなどの把握もするようにしている。居室でも好きなものが食べられるようにし、期限や季節に十分に注意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の身体状態を理解し、排尿の間隔や排便の有無などを把握しトイレへの誘導をしている。オムツを使用している人でもトイレで排泄できるように取り組んでいる。無理なく、オムツが下着になったむ人もいる。状態に応じ、ポータブルトイレの使用もしている。	
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	食前、後の入浴はさけるようにし、体調の確認もおこなっている。一人一人の能力で入浴を安全に楽しんでもらうように用具も整えている。入浴ができなくても、洗神や清拭などをおこない、病院、外出する方にもあわせ、希望があれば入浴できるようにしている。	順番となっているが、今はいりたくない方には、無理強いをしないように本人の希望に沿うようにしている。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	健康状態や状況に応じてベットへの促し、見守りや声かけを行っている。又、照明器具の配慮や室内温度にも注意している。居室に限らず安心して休息できるように談話室にマットをひいたり、ソファでも横になれるように支援している。ホットパックやマッサージ器具などもおいている。	
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の手伝いが座った状態でも参加できるように工夫している。後片付けや準備においても個々の能力や力を活かせるように声かけなどを行っている。職員が個人の生活歴や趣味を理解し、カラオケや洗濯、ビデオ鑑賞など、居室、談話室で思い思いに過ごせるように支援している。新聞や本や地域の広報などもおいている。	利用者と職員、共同の作品づくりをしている。毎年地域の行事に参加するようになり、作品展にだしたいと、目標をもてるようになってきた。最近には特にリハビリ意欲を持つ方が増え、午前中の体操や個々の運動をとり入れるようになった。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状態や能力に応じて、預かっている。必要に応じて又希望された場合に使えるようにしている。家族とも管理や使用については相談するようになっている。買い物時には本人が支払ができるように支援している。	家族の方には説明し理解をいただき、入居時には預かりの方でも財布や小銭入れの準備をお願いしている。所持される方は一緒におカネを確認したり保管場所を決めたりとお金を使うことや持つことを大切にしている。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもりには注意している。居室の訪問もこまめにおこない、職員同士が把握にも努めている。散歩や買い物、花見等希望に応じて出かけられるように支援している。玄関や庭には椅子などを設置し、戸外にもでれるようにしている。	
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出などは自由にできることを伝えている。季節の外出、花火大会や花見などにいっている。年に1度の一泊旅行も実施している。家族の参加もあり、一緒にでかけられる機会のひとつとなっている。家族、利用者共に毎年楽しみにしている。	家族との外出はみんなとても楽しみにしている、その着替えや準備等本人の意思や動作を大切にし、支援している。車いすの貸し出しもおこなっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は自由になっているが、かける際に確認や声かけをするようにしている。電話をかける支援を行い、話しやすい環境や静かな場所への移動の配慮もしている。便せんや封筒などの準備やポストと一緒にいくなどやりとりが継続できるようにしている。		請求書や明細書の郵送時には手紙をそえている。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室以外でも過ごせるよう、いつでも訪問しやすい環境づくりをしている。客間の提供もしている。又家族が談話室にこられ、談笑も増えてきている。居室へ椅子やテーブルを準備したり利用者も居心地よく過ごせていただけるようにしている。		いろいろな場所に椅子を設置しているので気ままに好きな場所で家族と過ごす利用者も増えた職員も必ず声をかけたり、挨拶はするように徹底している。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	状態に合わせた対応で見守りや支援で身体拘束をしないケアを職員全体でとりにくんでいる。社内研修も実施している。冊子や資料そろえている。服薬においても医師と相談したり生活全体を考えたケアにつとめている。		研修の回数を増やし、定期的に行いたい。家族にも説明を行い拘束についての理解をお願いしている。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は基本的に開放している。不快のない、チャイムを設置し、出入りの確認ができるようにしている。職員も見守りや職員間の声かけも行い、落ち着いた方々を個別に援助したり配慮をする対応をしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への出入りは本人に確認し、ノックは必ずしている。利用者の個々の所在も確認しあい、居室での状態も観察するようにしている。夜間は巡回を定期に実施している。トイレへの移動もある為、夜間観察も行っている。		居室には鍵の設置がある。家族の希望ではずした方もいるが、夜間に鍵をしめる方もいる。睡眠パターンやトイレなどで確認できている。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に合わせ、本人と家族に相談し、預かりや対応をしている。家具を壁にとめたり、居室内で予測できる行動などにたいして環境の整備をおこなっている。園内の洗剤や道具などは管理し、直接目にふれないようにカーテンなどを行っている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険な箇所や事故を防ぐ為に、状況の確認や把握、報告をするように徹底している。会議も開催し再防止につとめている。防止の為の取り組みや発生した時のマニュアルを作成している。		職員が研修などで学ぶようにしている。緊急通報システムや火災時の対応、火災訓練を利用者と共に行い意識づけと防止にとりにくんでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	担架や消火器や必要部品の場所等を職員が把握している。マニュアルの作成をしている。		急変時の対応が職員にしんとうしていない。発生後に会議をひき、反省や気づきについて考えている。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震等の連絡網を作成している。避難経路のマニュアルや職員の役割分担を決め、避難訓練も実施している。園内の消火器の確認。避難経路を見やすい位置にはり、日ごろより意識づけをしている。	○	地域推進会議内でも避難訓練について報告しているが、消防と地域との訓練をする予定である。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や考えられる病気や状態については家族とよく話をしている。その都度家族には、日頃の報告や相談とともに説明をするようにしている。その人らしく、生活できるように対応をかんがえている。		
に				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、食事ね水分量の確認を毎日確認し記入している。気づいたことや異変など職員で報告仕合い、情報の共有をしている。本人の訴えにも注意し早期の発見と対応に努めている。		入浴時にも体調の確認をしている。血圧や体温などはあらためて再検している。足の腫れや顔の浮腫みなど日常生活で常に観察している。又異変時は速やかに看護師や訪問医師等に連絡している。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬状を添付している。薬の担当者が管理し職員は内容や用法など確認、理解をしている。変更等には報告を必ずしている。服薬の確認は声かけ、状態に応じて介助している。変化や状態の観察も行い、主治医に報告、錠剤など飲みにくい薬などは相談をしている。		一人一人の名前の箱にいれ、棚に管理している。預かりにしているが、状態によって本人に管理して頂いている。本人にも薬の説明をしている。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	通じのよい食品や果物、おやつや飲み物などを利用し適度な運動と腹部のマッサージ、トイレへの定期的な促しをしている。		日誌に排泄の有無を記入している。排便の確認は必ず毎日実施しており、3日間ない人には薬の服用を検討し訪問医師や看護師に相談している。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	清潔保持の為食後のうがい、歯磨きの支援を個別状態に応じて支援している。訪問歯科の診療もあり、口腔指導や清潔保持の為の取り組みを職員、利用者と一緒にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を医師の指導のもと提供している方や量も個別に対応している。習慣づけられた食べ方の人には、小分けに提供したり、丼ものなどを別々に提供したしている。つけものなどの醤油は減塩などを提供している。水分は個別に確保したり、定時の時間にお茶をだすようにしている。		居室にお茶などを準備し、いつでも飲めるようにしている。水分量の確認、記入も行い、水分は栄養ドリンクやゼリー等でも対応している。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手すりや床は塩素系で消毒を実施している。汚物の処理や洗濯物も別に行い、その場所は消毒を徹底している。下痢や嘔吐時の対応は職員が理解し対応している。また職員が積極的に研修にも行っている。		玄関には感染防止による声かけとマスク、消毒の準備をしている。家族や友人、園に出入りする方には協力いただいている。また、広報などで理解と協力をお願いしている。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	野菜などは訪問の販売を利用したり、近所の魚屋で魚を購入したりと新鮮な食材の利用に努めている。食品の管理、期限の確認はきちんとおこなっている。まな板やふきんは毎日消毒をしている。使用後の台所は夕方かならず掃除を行い、洗剤の使用にも注意している。生ゴミは毎日処分し、台所にはおかないようにしている。		入居者専用の冷蔵庫があり、食品管理の冷蔵庫と混合して使わないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や廊下など広くスペースを確保している。ベンチやテーブルなどの設置も多くあるので近所の方が座ったり、病院待ちの方が利用している。家族が外でお茶を飲むのにも利用できている。出入り口は滑りにくいようにしており、安全にも注意している。めだかや犬とのふれあいも親しみやすさのひとつとなっている。		壁の色を変えたことにより、雰囲気もかわり近隣の方からの声かけも多くなってきた。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花をいけたり、壁画や入居者の作品展示などをしている。天窓には直接光がはいるようになっていて、季節によっては日よけを設置している。玄関や談話室には季節の花を飾るようにしており、家族からの頂いた花等も多くある。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や談話室、庭にも椅子やソファを設置している。又洗濯場にも準備しており、職員や入居者同士の団らんの場となっている。談話室のソファは一人でものんびりできるように配置を考えたり、畳の上で横になれるようにしている。又、居室以外に個人で使える部屋をつくっており、客間としての活用や趣味を楽しめる場として提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>家族と相談のもと、ベッドが布団に変更になった方がいる。必要に応じて状態の変化などを考慮し、手すりの設置、移動など自分らしく安全に生活できるように話し合いもしている</p>
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>ポータブルトイレを使用している方には最低、日に二回確認し処理を行い、本体の消毒や掃除もこまめに行うようにした。消臭剤の設置もしているが、本人の自尊心にも考慮している。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>洗濯日と入浴日が交互になった為か利用者同士の声かけがいきかうようになってきた。自立できる環境づくりにより、利用者同士の協力や助け合いもみられている。</p>
89	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>車いすや歩行器の方でも気がねなく外にでれるような環境や雰囲気づくりにとりにくんでいる。洗濯竿の位置を変え、活動しやすくなった。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

今年の年1回の旅行は、長崎ハウステンボスに出かけ、サーカスを見学し、たくさんに花々、大きな風車に利用者、ご家族、職員各々おどろきの連続。レストランやパーキングエリアでは思い思いに注文した食事に舌つづみ。今年も楽しい思い出づくり出来ました。目標を持つ事によって生き生きとハツラツと過ごして頂ける様に、個人個人に合わせ機能訓練、リハビリ支援等も取り組んでいます。